



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2006年12月現在、川崎3、横浜2、県域13 計18名で活動中！

## ～ '06年神通研集会 第1分科会報告～

☆「聞こえないこと・手話のこと」

一般社会が理解していないところは？

～サークルに入る前は、こう思っていました ③～

**日本語を手話単語に置き換るだけ、  
また筆談で全て通じると思っていた！**

- ・ 手話単語を覚え、日本語にそのままあてはめていけば、通じると思っていた。
- ・ 聞こえないだけの障害だから、筆談をすれば通じると思っていた。

聞く＆書く言葉の日本語を使ってきた健聴者が、手話と出会って初めて書き言葉を持たない見る言葉があることを知る。その未経験な世界プラス話す相手の日本語理解力や使う手話が多種多様。これはテキストだけでは決して学ぶことの出来ない、ろう者との交流の長さや深さが必要とされること。サークルへの参加が大切な理由です。

文章理解力もその人によってさまざま、健聴者は耳から自然に身に付いたことばですが、「お知らせ」と「ご連絡」、「お」と「ご」はどう使い分けるの？「火事」と「火災」は、どちらがうの？と聞かれたり、「梅雨（つゆ）空」と「梅雨（ばいう）前線」等、漢字の読み方はいろいろだし、「小春日和」が初冬に使う言葉で、「木枯らし」が風のことだなんて複雑怪奇。あらためて日本語の難しさを実感し、国語を勉強し直し、辞書のお世話になってしまいます。それを目からの情報だけでインプットしなくてはならないろう者。文章力と知的レベルは別物であることは一般社会に伝えていくことが大切ですね。

## ～ 定例会 ～

11/18・19と関東通研集会があり、定例会はお休みでした。その関東通研集会・第7分科会「手話サークル」のご報告。

1都5県（今回は茨城・山梨からの参加は無し）30名強の参加者。関東通研集会の分科会は、いつも気軽に意見を出し合える人数で、他県の方と繋る良いきっかけになります。

日頃のサークル活動の様子、災害についての取り組み状況、自立支援法・その後、募金活動について等々の意見交換を行いました。埼玉の運動と結びついたサークル活動は、良い刺激となります。聴協もサークル会員も「みんなで行動」・・・がキーワードでしょうか。少数だけが動いていたり、じっと待っているだけでは社会は変わりませんね。

来年、山梨集会でまたお会いしましょう！とすがすがしく終了。お昼をお付き合いいただいた群馬のHさん、有意義なひとときをありがとうございました。

【次回定例会】12月17（日）13:00～15:00

かながわ県民センター12F・ボランティアコーナー

## ～サークル研究班メンバーのささやき～

手話サークル研究班、「研究」って何を研究するのかな？と思い、まずは入る前に見学。皆さんの積極的な意見交換の様子を見て、入る隙がない（オロオロ）。情報の豊かさにびっくり！！「へ～、へ～」と話を聞くだけの今の私。知識不足・情報不足な私ですが、皆さんにいろいろ教えて頂き「へ～、へ～」だけにならないようにしたいです。宜しくお願いします。

Y☆T